

日本物理学会 理事会 御中

「物理学会期間中の託児室設置を考える会」世話人一同

物理学会託児室の今後の運営体制についてのお願い

理事会におかれましては、かねてより学会開催期間中の託児室設置について、積極的なご支援をいただいておりますことを、深く感謝いたします。さて日本物理学会では、1万人規模を越えるマンモス学会としては日本で初めて学会託児室を導入しました。新聞にも何度かとりあげられ、その波及効果は大きく、現在では、40近くの学会で学会期間中に託児室を設置するに至っています。

私どもが世話人をしております物理学会託児室は、おかげさまで導入から4年めに入り、10箇所近くの実績もでき、安定して運営できるようになってきました。そこで、ここでさらに今後10年、20年間安定して継続してゆけるよう、現在託児室設置に関係している三者（事務局・現地開催校世話人・託児室世話人）の雑務が少しずつでも減る方向で、今後の託児室の運営体制を模索してゆきたいと考えています。

具体的には、物理学会の特色や、子供の安全、預かる上での責任はしっかり把握した上で、シッター会社にできるだけ委託するシステムに移行していきたいと考えております。このような「シッター会社委託型」の学会託児室は、生物化学学会、また応用物理学会では既に導入されています。

金銭的な面から検討した結果、「シッター会社委託型」の運営体制をとった場合、年会・分科会どちらに関しても、物理学会が負担する1託児室当たりの援助額（＝利用者の利用料金－シッター会社へ支払う料金）は15－20万円程度になります。現在までの学会援助金との差額は、ケースによりませんが、1－2万円程度です。

以下、新しい運営体制の移行に関するポイントと、また実施された場合、物理学会が負担する費用についての試算を参考資料として添付します。まず、来春の九州大学における年次大会で試み、不都合な点があれば、回を重ねながら改善していきたいと思っています。

「シッター会社委託型」の運営方針をご了承いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

記

[新しい学会託児室の運営システムについて]

A. 変更を希望する主な点。

1. 利用者が直接シッター会社のHPで託児申し込みをする。利用者とシッター会社のあいだには、今までのように「考える会」の担当世話人が介在せず、直接、利用案内のやりとり、キャンセルなどの連絡をとりあう。
2. シッター会社が、会場設営の責任をもつ（子供がぶつかったら危ない柱の角の養生など）。開催校の現地世話人は設営時にたちあう必要はあるかもしれないが、プロに任せることで、今までのように設営の細かいところまでは気にしなくてよくなる。

3. 万が一、保育時に事故が起きたときの連絡体制については、「考える会」が作成したマニュアルに基づき、開催校の世話人とシッター会社とのあいだで、緊急時の託児室シッターと現地の学会事務局会場（世話人・アルバイト）との連絡体制をまとめ、関係者に周知する。
4. シッター会社が、学会規定にのっとり、利用者から料金を徴収する。学会後、シッター会社が「収支決算書」をだし、差額（つまり学会負担分のみ）を事務局に請求する。

*現在のところ、学会規定は、600円/子供/時間、二人目以降と学生・ポスドク割引400円/子供/時間となっている。

B. 変更にならない点。

1. シッター会社との契約、傷害保険の契約は従来どおり学会事務局が担当
2. 会場の確保と、シッター会社による下見・設営時に必要な相互連絡は開催校世話人が担当
3. シッター会社の選定は、「考える会」から出た担当世話人が担当・今後も年会時の「託児室連絡会」インフォーマルミーティングは継続して、利用者、開催校、事務局、世話人の意見をとりこんでゆく。

参考資料1 . 物理学会託児室利用料金シッター費用概算

（生物化学学会、応用物理学会が委託した「ポピンズ」社のケースによる）

参考資料2 . アンケート調査による物理学会の託児室ニーズの現状の要点まとめ。

日本物理学会におけるアンケート調査（日本物理学会誌 vol 56, No4, 2001）によると、その時点で託児室を利用する可能性のある子供の数は、27家族子供38人。（有効回答総数62のうち、男性会員28人、女性会員34人。参加分科は物性、素・核・宇がほぼ半々、常勤：任期付き・ポスドク：学生の割合は、ほぼ3：2：1。）回答者のうち、若手研究者の占める割合が多いことを見ても、今後需要が増えることはあっても、減ることはないといえる。

またアンケートによると、託児室が設置になる前は、少なからぬ割合で、会期の全部又は一部の参加をあきらめていたり、どうしても参加したい場合は子供をみてる家族を同伴してやりくりしていた。また日帰りできる範囲での参加をする場合に、極端な例では、東京から仙台まで毎日往復した、という例もあった。

過去の物理学会託児室では、例えば、2002 年年次大会@立命館大において、子供12人、4日間でのべ33人もの子供が預けられた。このような学会託児室の設置は、実際に子供を預ける学会員ばかりでなく、子供をこれからもとうと思っている世代の学会員についても、将来について大きな安心感を与えているという声がある。

以上からわかるとおり、学会託児室設置は、物理学会会員の切実なニーズである。